

囲碁入門講座通信 令和2年 第2号



報告:有楽齋

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいます。

昨日3月8日(日)の講座で曙(あけぼの)さんと酒中花(しゅちゅうか)さんの初対局を予定していましたが諸般の事情により延期となりました。(残念)

今号では、入門者にとって大切な囲碁のルールについて簡単に説明をしたいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

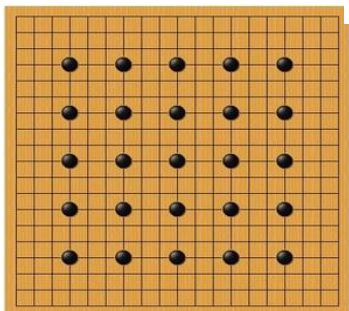
- 1.碁盤は19路盤を使い、石は交差したところに置く(将棋やオセロは升目の中)
- 2.一手ずつ交互に打つ(石は上手が白、下手が黒を持つ)
- 3.地を多く囲ったほうが勝ち(ルールというよりも、碁の目的です)
- 4.囲んだ石は取れる(相手の石を囲むと取ることができます)
- 5.打ってはいけないところがある(一つ眼やカケ眼の中には打てません)
- 6.コウはすぐに取り返すことができません

その他にも細かいルールはありますが、碁がしっかり打てるようにならないと理解できないものが多いです、でもある程度強くなるまで知らなくても碁は打つことができます。上記の1から6の詳細は、囲碁入門講座で分かりやすく、丁寧に説明しています。ぜひ囲碁入門講座にお越し下さい。(次回は4月12日(日)です)

『置碁』というハンディについて ~実力差があっても上手・下手ともに楽しめる囲碁

囲碁はちょっと棋力に開きがあるだけで、勝負はワンサイドになります。勝つ見込みゼロの相手とゲームをして楽しいはずはありません。ところが囲碁には実に合理的なハンディキャップがあります。それが置碁(おきご)です。棋力の差に応じて、あらかじめ石をいくつか置いてからはじめます。

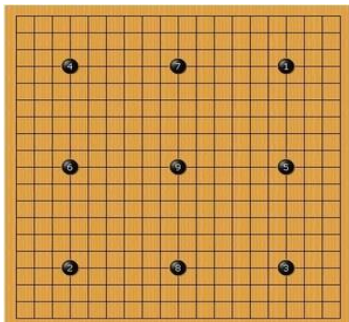
(雀士名は碁に因んだ名をニックネームとして表記しています)



●25子の置碁 (25級以上の差)

左の図は、初心者が強い人から置かされる置碁のパターンで、25個(MAX)も黒石が置かれています。

置碁の対局はすべて上手(白)から打ち始めます。なお25子の子は「し」と読みます。



●星目(9子)以下の置碁

左の図は、9子(星目)の置き方で、碁は9子局から始まると考えて下さい。それ以上は上手の棋力に関係なく「指導碁」です。9子(星目)石を置く順番、8子~2子局にも置き方のルール(礼儀作法)があります。詳しくは、囲碁入門講座でご案内します。